４班　　部会報告書					
提案NO	一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな相談、支援をできる体制を、地域包括支援センターを中心につくろう			Ｒ４検討	－
提案２０				Ｒ５検討	○
担当委員	和田　理恵	山地　奈津美	芦田　育美		
第４回	令和５年２月１９日（月）	9:30　～　：	福知山公立大学　２号館１階 Ｃｏ-Ｌａｂスペース		

取組の方向性（テーマ）

地域包括支援センターの認知度を上げて誰でも相談できるようにしよう

グループワークより出てきたアイディア

・地域包括支援センターが誰でも、何でも相談できる場所であることを伝える。
・地域包括支援センターの認知度を高めるために、チラシ等の媒体を使って地域に広める。
・困りごとを抱えている人を見つけたら、地域包括支援センターの相談に繋げられる地域の人を増やす。
・日頃からのあいさつや声掛けにより、地域の人同士のつながりを深める。
・生きがいづくりや健康寿命を延ばすために、元気な人が活動できる場として、地域の中で、年齢を問わず誰でも集って何でも話せる場所があればいいな。

取組の方向性（取組の内容）

①地域包括支援センターの認知度を高めるために、チラシを作成したり、市のホームページを充実させる。
　チラシの作成は、地域包括ケア推進課において今年度中に作成する。
　来年度、地域包括ケア推進課や地域包括支援センターが、多くの人が集まる店舗や地域の集会所、ごみステーションなど地域の施設にチラシを置いてもらったり、掲示してもらうよう依頼する。また、移動販売業者にもお客さんへのチラシの配布を依頼する。
　地域の住民には、チラシを見ることによって、地域包括支援センターのことを口コミで広めてもらう。
　市のホームページにもチラシを載せたり、いろいろな情報をアップできるようにするとともに、市のホームページのＱＲコードを記載し、誰でもすぐ見てもらえるようにする。（市外への発信にもなる。）
　地域包括支援センターにおいても、定期的に「おたより」を発行し、情報提供に努める。
　こういった取り組みで、地域包括支援センターが誰もがいつでも相談できる場であることを周知する。

②日頃から地域の人同士のつながりを深める。
　まずは、自分から挨拶や声掛けをしていく。
　困った人を見つけたら地域包括支援センターに連絡してほしいので、チラシの中に「気になる人がいれば教えてください。」といった内容を入れる。

③地域の中で、年齢を問わず誰でも集って何でも話せる場所をつくる。（将来的に）
　どうしたら作れるのかわからない人もいるため、こういったことも地域包括支援センターに相談できることを周知する。
　やる気のある人と地域包括支援センターが繋がって誰もが集まれる場所ができてほしい。